

環境や防災、維持管理

技術者120人が知識深める

ミラクルソル協会の技術研修

ミラクルソル協会(原裕理事長)が主催する2019年度第27回技術研修会が21日、唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」であった。官公庁、建設コンサルタント会社、建設会社などから約120人の技術者が参加し、環境や斜面防災、維持



▶ 講義を行う原理事長

管理技術について知識を深めた。技術研修会はミラクルソル協会の主催で、▽佐賀県ジオファイバ協会▽佐賀県ニューレスプ協会▽S Wライナー工法協会1の3団体が共催。2部構成となっており、「環境と防災と維持管理技術」をテーマに様々な研修が行われた。

第1部では原理事長が「ミラクルソル工法の環境負荷低減技術」の演題で講義。その中



▶ 講義を行う日特建設株式会社九州支店の岩崎次長

で「台風や豪雨災害などが全国的に頻発している。これは地球温暖化との関連性が高く、様々な分野での対策が必要。以前は大阪の方が九州より平均気温が低かったが、最近は逆転している」と説明し、地球温暖化対策の必要性を強調した。

講義ではガラス廃材でつくったミラクルソルを使った有明海の底泥改善やF W G透水性舗装工法などについて解説し、「工法選定の

段階で安全・機能性や経済性に加え、環境および耐久性の指標を持つて工法を選ぶ必要がある。透水性舗装ではミラクルソルを充填することにより、最大で約17度の温度抑制効果を得ることができると話した。

続いて、日特建設株式会社九州支店の岩崎次長が「環境防災技術から法面維持管理まで」と題し、法面保護のジオファイバー工法、親杭パネル壁工法、ニューレスプ工法の特長や施工事例などを

解説した。

第2部では日本建設技術株式会社企画開発戦略部の金丸彦一郎部長が「水産分野でのクリスタルバイオの活用状況」、旧SHS永久アンカー協会の常任理事を務める原理事長が



技術研修会の様子

「SHS永久アンカー工法の構造とそのメリット」、岡三リビック㈱リバイブ創新部の鳥飼貴人部長が「管更正技術の現状(S Wライナー工法技術審査証明改定の報告)」の演題でそれぞれ研修を実施した。

このほか会場では、パネルディスカッションや質疑応答なども行われた。